



図 10 像の鮮鋭度関数を用いた二重星の分離⁶⁾

- (a) 擾乱下の像分布
- (b) 補償され分離された二重星像

子ぐらいの光量が取れんするために必要である。これは擾乱の相関時間が長くて、信号の積分時間が長くとれる夜間では7等星ぐらいの明るさに相当する。

6. 将来の展望

大気の擾乱の補償に、補償光学系を用いると、ほぼ回

折限界近くまでの性能を光学機械にもたすことができる。

天体用としては、シェアリング干渉法のように、開口を N ケに分割して、 N ケの検出素子に入射エネルギーをそれぞれ与えるやり方は低照度という条件から好ましくなく、入射エネルギーのほぼすべてを使う鮮鋭度関数を用いるものが適している。

大気の擾乱を単に補償という目的だけでなく、望遠鏡自体に起因する装置歪をも補償することが、望遠鏡の大口径化に伴い重要となってきている。

参 考 文 献

- 1) H. W. Babcock: J. Opt. Soc. Amer., **48** (1958) 500.
- 2) J. Feinleib et al.: SPIE **75**, (1976) 103.
- 3) R. A. Muller et al.: J. Opt. Soc. Amer., **64** (1974) 1200.
- 4) W. H. Southwell: J. Opt. Soc. Amer., **67** (1977) 396.
- 5) J. W. Hardy: J. Opt. Soc. Amer., **67** (1977) 360.
- 6) A. Buffington et al.: Science, **200** (1978) 489.

お 知 ら せ

東京天文台助教授公募

東京天文台では次の通り助教授一名を公募します。

東京天文台長 古在由秀

東京大学東京天文台では、長野県南佐久郡南牧村野辺山に、全国共同利用の大型宇宙電波望遠鏡を建設中で、1982年4月には一部運用開始の予定である。野辺山宇宙電波観測所では宇宙電波の観測的研究のほか、そのためのアンテナ、低雑音受信装置、VLBI、大容量分光分析、ソフトウェアなどの開発を重要な仕事としている。

募集人員：東京天文台野辺山宇宙電波観測所助教授 1名(野辺山勤務)

研究分野：電波天文学

仕事の内容：宇宙電波の観測的研究、観測装置の開発などに従事する。

着任時期：決定後なるべく早い時期

提出書類：履歴書(研究歴の説明を含む)、論文リストと主な別刷(共著の場合は役割分担を具体的に示すこと)、自薦の場合は研究上の抱負、他薦の場合は推薦書(いずれも簡潔に)

応募締切：1981年9月末日

宛 先：〒181 三鷹市大沢 2-21-1
東京天文台 青木信仰

連絡先：同上 田中春夫
Tel. 0422-32-5111 (内線 329)

その他：封筒に「助教授応募書類在中」と朱記すること。

東レ科学技術賞および研究助成候補者募集

上記について東レ科学振興会より本会あて推薦依頼が来ています。希望者は10月30日までに、学会庶務理事まで御連絡下さい。募集の要項はつぎのとおりです。

科学技術賞……(1) 学術上の業績が顕著なもの (2) 学術上重要な発見をしたもの (3) 重要な発明をしてその効果が大きいもの (4) 技術上重要な問題を解決して技術界への貢献が大きいもの、に対し金メダルと副賞300万円。

研究助成金……科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を行なっている研究者、またはそのグループに対し総額1億円前後、1件1,000万円程度。但し、とくに重要と認められる研究については、3,000万円程度まで助成が考慮されます。

贈呈期日は両方とも昭和57年3月の予定。